

「ターミナルケア住宅説明会」

関西福祉情報センター(堺市)はこのほど、患者の退院先や中重度者の受け入れ先を確保したい病院、診療所、訪問看護事業所、老健施設などに対し「ターミナルケア住宅説明会」を開催する。初回は7月31日。大阪市北区でサービス付き高齢者向け住宅を運営する「ひふみ苑」(大阪府高槻市)による、エンディングノートを活用した運営手法を紹介。病院や訪問事業所は患者の受け皿を確保でき、高齢者住宅運営事業者にとっては入居促進を図れる。



関西福祉
情報センター
城内龍玄社長

エンディングノート活用 中重度者の入居促進

病院・訪看向けに

ひふみ苑が運営するサービス付き住宅は一昨年4月に開設。居室数は50室で中重度の要介護者が中心に

組みを紹介するとともに、ターミナルケアに関する講演会も実施する。

NPO法人トータルラ

い出してもらい、認知症予防の効果も期待している(城内龍玄社長)。

入居。施設内での看取りサービスも提供している。8月から関西福祉情報センターの監修のもと、エンディングノートを活用したサービスを開始。7月31日の「ターミナル住宅説明会」ではその取り

説明会では、「住宅での看取りに関する手続き」、「ターミナルケア基本理念」、「ターミナルケア依頼書」などの書式を公開する。

いる。昨年、一般社団法人高齢者住宅・サービス評価協会を設立。介護コンサルタント・弁護士・司法書士・社労士・不動産鑑定士ら専門家が130項目による高齢者住宅の外部評価を行う事業を開始した。

医療・介護 トレンド

リリーフ(兵庫県西宮市)は、遺品整理事業のフランチャイズ(FC)展開をスタートし、7月

1日に千葉県にて第1号店「千葉ベイサイド店」をオープンした。全国的に加盟店を募集しており、愛知・三重・岐阜県を対象に説明会を実施する予定。3年で全国に30

店舗の展開を目指す。「遺品整理」とは、故人の持ち物だった様々な品物を整理して片づけるサービス。高齢化の進展、独居世帯の増加などを背景に近年急速にニーズが高まっている。その一方で、参入企業も乱立しサービス品質の低い事業者が増え、トラブルが増加しているという。同社は優良な事業者ネットワークを構築し、業界の健全な発展を実現したいという狙いからフランチャイ

足度調査で高い支持を得。スタッフの「清潔感」「報告態度」「作業の丁寧さ」「説明の分かりやすさ」などいずれも高評価を得ている。

千葉で1号店 3年で30店へ



▲スタッフ全員に独自の研修プログラム

ズ展開をスタートした。スタッフ全員に独自の研修プログラムを受講させるなどコンプライアンスを重視。FC加盟店にも同様の研修を実施することで、リリーフのサービスを業界のスタンダードとすることを目指す。

研修プログラムを修了すると、同社のサービスを提供できる者として「遺品整理マイスター」の資格を授与する。研修プログラムが浸透したことで、顧客への満

「リリーフのフランチャイズに加盟することでコンプライアンスの徹底や法令遵守を厳しく行い、顧客に安心・信頼し提供していく(千葉ベイサイド店長)。

同社への昨年度の遺品整理に関する問い合わせ